



「内達一号」改悪阻止のために その5

日刊 動労千葉

82,3,23

No.999

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）品五（二二）七二〇七

内達改悪を先取りする動労「本部」の反動的方針「働こう運動」

「内達一号改悪阻止のために」シリーズをしめくくるにあたって、動労「本部」革マル反動分子の打ち出した「働こう運動」が明白に国鉄当局の内達改悪を先取りした労働組合の側からの積極的な屈服と裏切りであることについて明らかにする。

闘わずして屈服・敗北するのか。それとも闘ってふりかかる火の粉を自分で振り払うのか。二つに一つの道以外にはない。

今こそ、反動的な屈服路線を粉碎し、国鉄労働者の底力を発揮して闘いに立ち上ろうではないか。

つぎつぎと職場既得権の返上を指令する動労東京・松崎一派

われわれはこの間動労「本部」革マル反動分子の「働こう運動」の反動性について「日刊」紙上で再三にわたって明らかにしてきた。

この動労の屈服と裏切り路線と軌を一にした当局の攻撃が急ピッチでかけられるであろうことも明らかにしてきた。

現に、「日刊」（九九五号）でも明らかにしたように、東京三局は、われわれが長年にわたる闘いでかちとってきた職場慣行・職場既得権を「ヤミ慣行・悪慣行」「勤務の厳正」としてその一切を剥奪し、職場抵抗闘争を完全に一掃・封殺せんとする攻撃をかけてきた。

この当局の恐るべき攻撃に相呼応して、動労東京・松崎一派は、ついに第七八回定期委員会において、「国鉄に対する批判を真剣に受けとめ、正すべきは、すぐにも具体化する」として、①乗客サービスの向上のため、運転室カーテンを開ける。②勤務規定に従って、ネクタイをきちんとしめる。帽子をかぶる。丸首セーターなどは禁止する。などを決定したのである。これが真正正銘のマル生運動でなくてはならぬか。「働こう運動」の正体は、裏切り者・反動分子松崎一派がいかなるいまわしをしようとも当局のマル生そのものであり、動労の産報化運動に他ならないのだ。

こうして、武操合理化・さらに一昨年の乗務員運用合理化率先協力でも明らかのように全国に先がけて真先に協力・屈服し、組合員の利益のすべてを売り渡してきた動労東京・松崎一派は、ついに、職場慣行・職場既得権を自ら返上し、職場抵抗闘争の圧殺を率先してやり出したのである。

内達一号の先取りⅡ
「働こう運動」の反動性

「働こう運動」の正体は、動労東京の今回の屈服と裏切り方針で明らかのように国鉄全職場の



「ワッペン・赤腕章をはずせ」等々の第二臨調攻撃に対決し、既得権を防衛し、意気高く腕章闘争を貫徹する動労千葉青年部。

既得権の返上運動であり、マル生運動そのものなのである。同時に、「働こう運動」は、内達一号改悪の積極的な先取り運動であることも明らかである。

動力車乗務員に対しては、「民託化できない部門」として「私鉄以上の労働強化」「働き度を高める」攻撃が必至であり、合理化によって要員を生み出す内達改悪攻撃がその第一歩なのである。

動労「本部」革マル反動分子は、この内達改悪攻撃に全く沈黙したままである。この今日の動労「本部」の対応から明らかことは、当局の攻撃の前に動労の側から積極的な「働き度を高める運動」を推進し、内達改悪攻撃にそのまますムースに移行しようとしているのである。

そしてこのような反動的な方針に従わない組合員に対しては、暴力とドウカツとテロをもって襲いかかってきているのである。

こうして、一たん始まった「働こう運動」は、とめどもない屈服と裏切りの方針として動労を産報化の道へと突き落とし、ついには国鉄労働者を戦争と侵略と反動に加担する愛国労働運動へと、政府支配階級・国鉄当局の最尖兵になって突き進ませる事は必至なのである。

われわれは、この恐るべき反動性・反労働者をむき出しにした動労「本部」革マル反動分子に心からの怒りを燃やし、今こそ彼らを動労から追放・一掃し、動労大改革をかちとらなければならない。